

### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

○医療機器の稼働率が悪いので、健診に有効活用し、医療と保健の両方を担っている。

○医療・保健が変わってきており、やりづらくなる。

- ・特定検診に変わると受診者が約3割減る。

（平成20年度から、各保険者が検診を行うこととなり、被扶養者の受診が減る見込み。）

診療時の患者データを使った保健指導ができなくなる。

- ・介護をがんばろうと思っても、最近の家族はすぐに施設へ入所させてしまう。在宅で家族が診てくれるようになれば往診にもいけるようになる。

○赤字運営

- ・年間30,000～40,000千円の一般会計の繰り入れを受けている。

- ・住民1人当たり1万円程度の赤字は、医療・保健の費用として、認めていただいている。老人医療費の少なさ等で効果が目に見えている。

### 4 他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

- ・紹介は新庄病院からが8割。徳州会から1割、中央病院・大学から1割といったところ。
- ・在宅で現在3人診ている

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

特別養護老人ホームの嘱託医（週一回訪問）、大蔵村の人が8割入所

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

### 6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

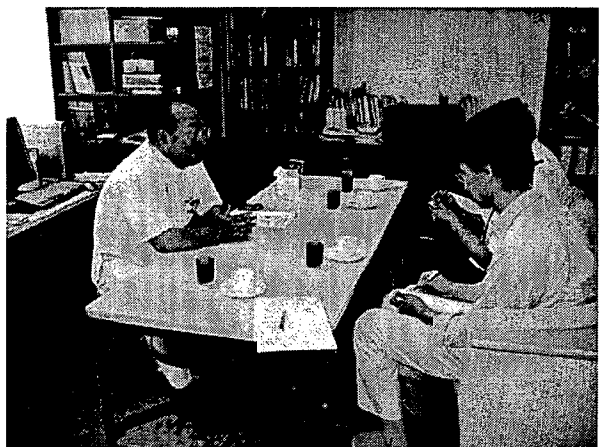
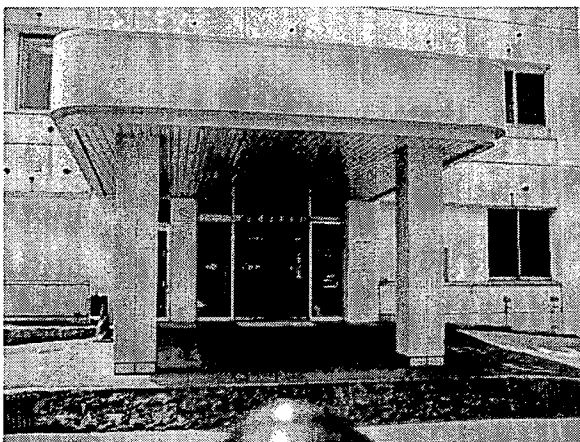
②代替医、集約化、医師確保について

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・新庄病院の存続が地域医療にとって非常に有効。

- ・診療所では、内科・外科・整形外科・産婦人科など総合医として幅広く診療しており、自分だけでは不安である。地域の中核病院である新庄病院を頼りにしている。



## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 69歳 ③住所(地域名) : 清水
- ④家族構成(単身等) 6人

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : コレステロール異常(健康診断)
- ②受診頻度 : 一ヶ月に一度
- ③交通手段(状況) : 徒歩又は家族の送迎
- ④2次医療機関 : 新庄病院
- ⑤時間外等の対応 : 特になし(これまで経験なし)
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 大変助かっている。近くて便利。説明も丁寧。
- ⑦健診(検診)の受診状況  
毎月診てもらっている。人間ドッグも受けている。
- ⑧その他

## 患者さんへのインタビュー 2

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 53歳 ③住所(地域名) : 合海
- ④家族構成(単身等) 4人

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 人間ドッグで引っかかったため、胃潰瘍のカメラをのむ
- ②受診頻度 : 年1回
- ③交通手段(状況) 車で3分
- ④2次医療機関 : 新庄病院
- ⑤時間外等の対応 :
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : なし
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 建設組合で助成が出るので、健診、脳ドッグを毎年受けている
- ⑧その他

## 患者さんへのインタビュー 3

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 69歳 ③住所(地域名) : 肘折
- ④家族構成(単身等) 7人(二世帯)

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧
- ②受診頻度 : 月1回
- ③交通手段(状況) : 車(30分)、バス(45分)
- ④2次医療機関 : 新庄病院(脳梗塞で2ヶ月入院)
- ⑤時間外等の対応 : 診療所でも診てくれる。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望)  
先生が2人いるが、いつも同じ先生に診てもらいたい。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 毎年1回
- ⑧その他 : 診療所の人たちみんなよく知っていてくれて安心。

## 患者さんへのインタビュー 4

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 29歳 ③住所(地域名) : 藤田沢地区
- ④家族構成(単身等) 5人 両親、妻、子ども

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科(かぜ)
- ②受診頻度 : 具合悪くなったときに使う程度
- ③交通手段(状況) 車
- ④2次医療機関 : 新庄病院
- ⑤時間外等の対応 : 新庄夜間救急
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 近くにいろんな病気に対応できる大きな病院があればいい。救急車は来てくれるが、冬が心配。雪が多く除雪が追いつかない時もある。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 会社で毎年実施。家族は、村の中央公民館で受診している。
- ⑧その他

## 患者さんへのインタビュー 5

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 76歳 ③住所(地域名) : 肘折地区
- ④家族構成(単身等) 7人 妻、息子夫婦、孫

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科(血圧)、歯科
- ②受診頻度 : 2ヶ月に1回
- ③交通手段(状況) 普通はバス。今日は車で来た。
- ④2次医療機関 : 新庄病院
- ⑤時間外等の対応 : 救急車にて搬送
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 診療所があるおかげで助かっている。自宅で旅館を営んでいるが、お客さんが倒れたとき、救急車が来るまでの時間が心配。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 新庄の検診センターで受診している。
- ⑧その他

## 患者さんへのインタビュー 6

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 70歳 ③住所(地域名) : 清水地区
- ④家族構成(単身等) 5人 妻、息子夫婦、孫

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科(血圧)
- ②受診頻度 : 毎月
- ③交通手段(状況) 徒歩
- ④2次医療機関 : 県立新庄病院
- ⑤時間外等の対応 : 救急車にて搬送
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 県立新庄病院がなくなると困る。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 家族全員、中央公民館で実施するドックを年1回受診
- ⑧その他

## 4 戸沢村診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成 19 年 6 月 13 日(水) 14：00～15：00

②対応者：大友孝弘 (52 歳)

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 高橋  
山形県健康福祉企画課 青山主査、竹田主事

### 2 基本的事項

	項 目	
1	診療所の位置	戸沢村大字古口 2664-5 村役場、郵便局、国道 47 号線からすぐ近く、古口駅から 400m 以内
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢 単身者率、受診者の平均 年齢人口等)	人口：5,799 人 (H18.10.1)、高齢化率：30.5%、高齢単身者率：高い、受 診者の平均年齢人口：60 歳ぐらい
3	診療科(実際に診ている 診療科・主な疾病等)	内科(総合) 新庄病院で 10 年勤務
4	診療日時	月・水・金 8 時 30 分 ～17 時 00 分 火・木 8 時 30 分 ～12 時 00 分(午後は特老へ) 土(第 2・第 4) 8 時 30 分 ～12 時 00 分
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、 派遣元((社) 地域医療支 援機構・へき地医療支援 機構等))	医師 1 名、看護師 4 名(正職員 3)、事務職員 2 名(正職員 1)
6	運営方式 (経営状況)	村立、繰入無
7	主な診療機器	胸部エックス線、エコー、上下内視鏡、心電計、透視台
8	外来患者数(1 日)	平均 70 人程度
9	通院手段	村営バス、電車 自家用車
10	周辺の医療機関	なし
11	周辺の福祉施設	特老、さんさん(民間施設)
12	救急体制、夜間・時 間外の診療体制	くれば対応するがこない。 新庄病院 (月 2 回は夜間診療所に行っている)
13	I T 等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	電子カルテは今年から導入。遠隔医療については導入していたが、昨年撤 去。

### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

新庄まで25分という距離。人口は減少、高齢化率はどんどん上がり、今のところ赤字じゃないが、赤字になったら存続についてどう考えるか。

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

新庄病院からの紹介状を持って来る人が増えた。入院はほとんどが新庄病院、空きがない場合等は徳州会

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

特老の囑託週一回

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

頼まれれば行くが、こちらから行くことはしない。

### 6 その他

#### ①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

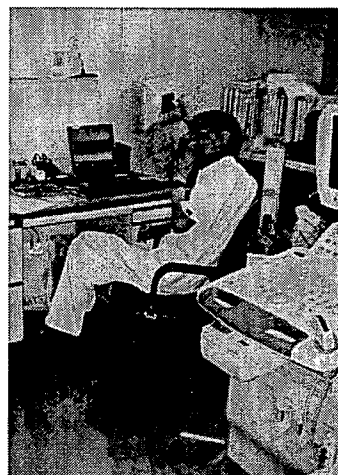
産科、小児科がこの地域に少ない。

#### ②代替医、集約化、医師確保について

#### ③診療報酬改定に対する意見

#### ④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

・最上地域は小児科が足りない。新庄病院にも医者が足りない。



## 5 国民健康保険小滝診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年6月26日13：30～15：00

②対応者：所長 金子昭雄（80歳）（H14.4.1～現在）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 渡辺  
山形県健康福祉企画課 竹田主事

### 2 基本的事項

	項目		備考
1	診療所の位置	南陽市小滝1471 小滝地区の中心部。診療所周囲には小学校、公民館などがある。それ以外の公的機関はない。	
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等)	小滝地区人口302人。高齢夫婦が多い。患者がお互い顔なじみ。受診者の平均年齢74歳（7名（66～92歳）。近くに小学校があるが、子どもの受診はほとんど無い。開院のサイクル（週1回）が原因か。	小学校は複式学級（児童は20名程度）、保育園は数年前廃園になった。
3	診療科(実際に診ている診療科・主な疾病等)	内科を標榜しているが、内科以外の患者が受診しても対応している。主に高血圧、腰痛など。	
4	診療日時	毎週火曜日 13時30分～15時30分まで	
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、派遣元((社)地域医療支援機構・へき地医療支援機構等))	医師1名 看護師1名(臨時) 事務職員1名(臨時)	
6	運営方式(経営状況)	国保(特別会計) 230万～240万円で運営	
7	主な診療機器	なし。(以前はレントゲンなど胸部写真や心電図もあったが、現在は、診察のみ。)	
8	外来患者数(1日)	3～4人	
9	通院手段	徒歩 高齢者が多く、自ら運転して通院する人がほとんどいない。雨の日などは、足腰が弱く、通院できない高齢者もある。	
10	周辺の医療機関	なし (公立置賜南陽病院まで約14km、公立置賜総合病院まで約23km、山形市の診療所まで11km)	
11	周辺の福祉施設	なし。(入所する場合は、南陽市・山形市の施設。あまり、入所する例はない。デイサービスは宮内を利用する。)	
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	夜間・時間外の患者はほとんどいない。 また、患者やその家族へは、緊急事態の対応として、病状を説明の上、救急車を手配あるいは直接大きな病院へ行くように話をしているため、夜間・時間外に所長の自宅に電話がかかってくることはない。	
13	IT等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	なし。	

### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

- ・患者のほとんどが、顔見知りで、十分なコミュニケーションがとられているため、患者の症状に起因する家庭環境など、総合的に把握することができる。ある意味家庭医の役割を果たしているのではないかとと思われる。
- ・本来であれば、患者とのコミュニケーションは本当に重要であるが、現在の医療ではそれに見合った報酬が無いため、非常によろしくない状況。

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

- ・特筆すべき、連携は無い。
- ・患者のほとんどが、慢性的な疾患（高血圧）などでそれ以外は非常に安定している。
- ・患者に対して、健康指導も行っているためか、患者の病気が悪化することはあまり無い。
- ・したがって、あまり他の医療機関に紹介することはない。

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老一老介護等の状況）

- ・特筆すべき、連携はない。
- ・小滝地区のほとんどが、家族が介護をしているため、あまり介護を受けている話を聞かない。
- ・寝たきりになった高齢者1名が山形市の特別養護老人ホームに入所した例はある。

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・あまり、例が無い
- ・高齢者が亡くなった後に、診療所に連絡が来ることがある。

### 6 その他

#### ①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

#### ②代替医、集約化、医師確保について

#### ③診療報酬改定に対する意見

#### ④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・道路がよくなったが、過疎が止まらない。むしろ進んだ。若者は山形へ行く。
- ・バスは2時間に一本。住民は、冬の通院（診療所以外の病院）は我慢している。

## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

①性別 女 ②年齢 92歳 ③住所(地域名) : 小滝地区

④家族構成(単身等) 3人世帯(本人、嫁、孫)

※雨天のため、患者本人が徒歩で通院することができず、薬をもらいにきた嫁にインタビュー。

①~④は患者本人のデータ

### 2 利用状況

①診療科(今回、通常) : 内科(高血圧)

②受診頻度 : 2週に1回(本日は、雨天のため、嫁が薬をもらいのため通院)

③交通手段(状況) : 徒歩(雨天時は、嫁が薬をもらいに徒歩で訪れる)

④2次医療機関 : 公立置賜南陽病院

⑤時間外等の対応 : 特になし

⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 特になし

⑦健診(検診)の受診状況

⑧その他

## 患者さんへのインタビュー 2

### 1 対応者

①性別 男 ②年齢 74歳 ③住所(地域名) : 小滝地区

④家族構成(単身等) 夫婦2人世帯

### 2 利用状況

①診療科(今回、通常) : 高血圧

②受診頻度 : 2週に1度。妻も同様。

③交通手段(状況) : 自動車

④2次医療機関 : 公立置賜南陽病院(現在、2ヶ月に一度の受診)

⑤時間外等の対応 : 緊急時は救急車を使う。

⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : とくになし

⑦健診(検診)の受診状況

小滝地区で検診を行っているのを助かっている。

小滝地区以外で行うとすれば、検診に行かないだろう。

⑧その他

## ○周辺住民へのインタビュー(近所の飲食店にて)

### 【地元20代と見られる女性】

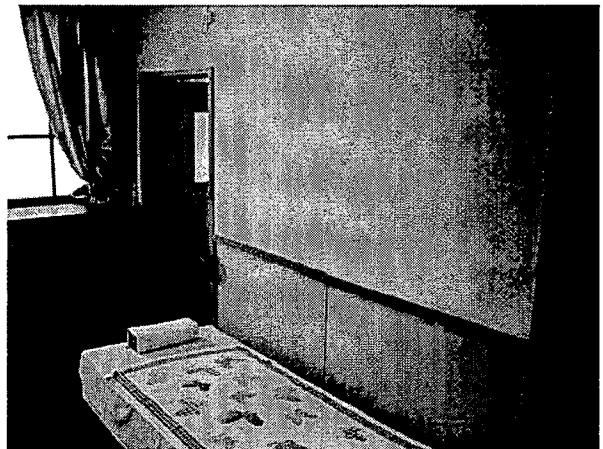
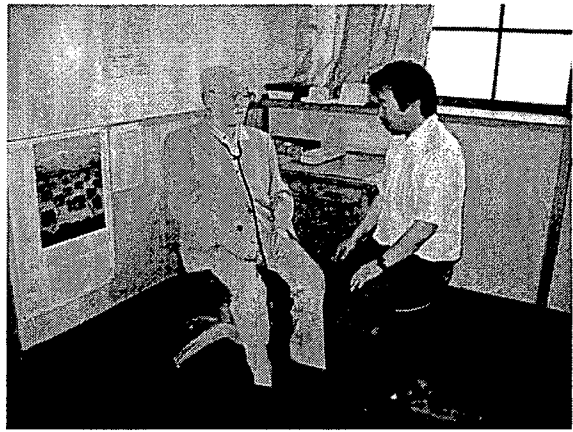
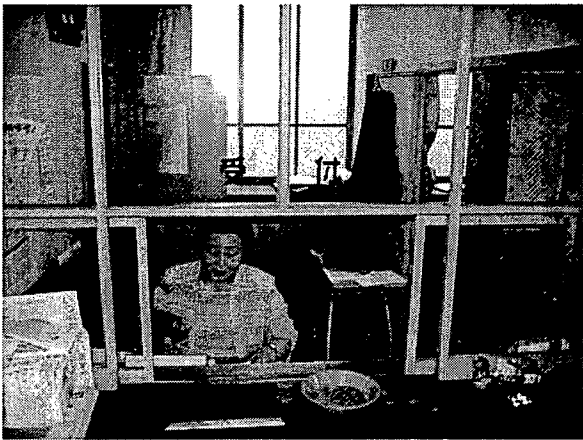
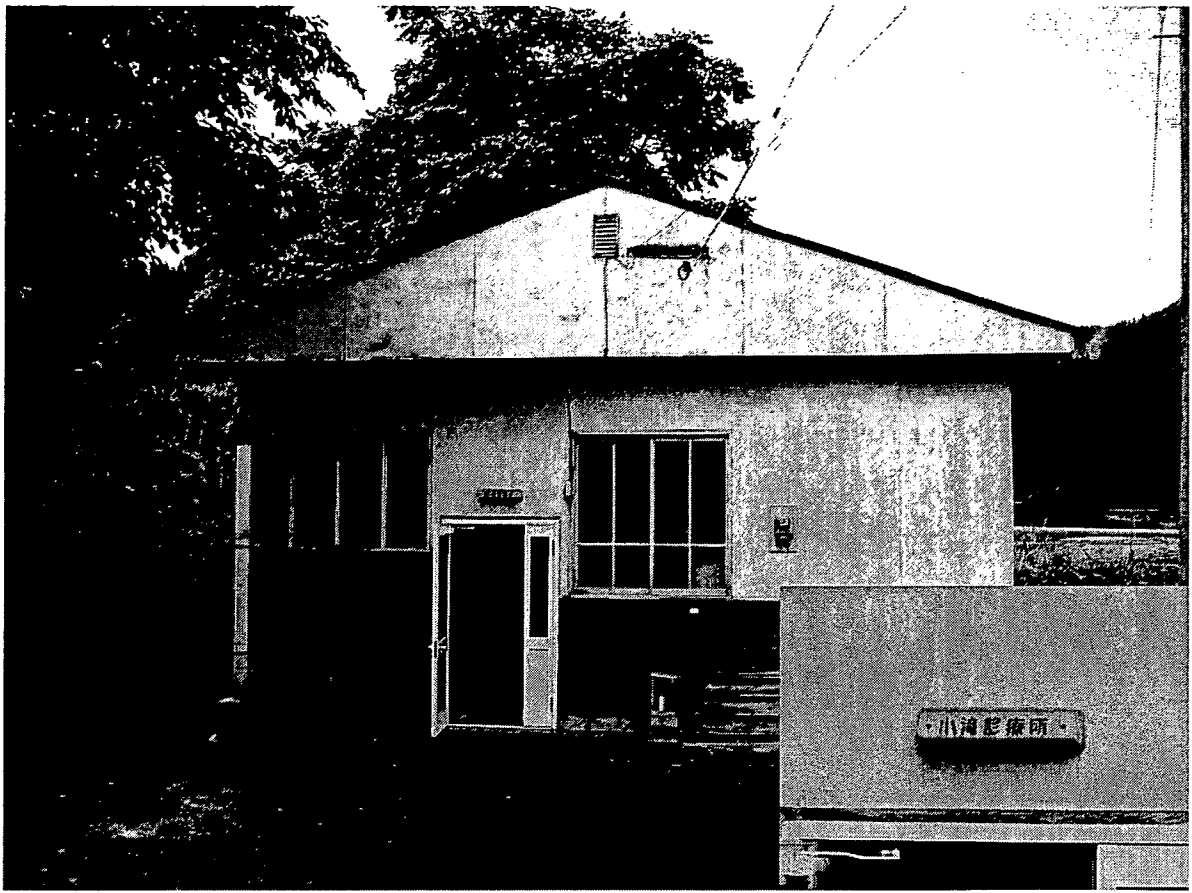
「診療所は閉鎖されている。昔はあった。地図には載っているが今はない。くわしい話はもっと年配の人に聞いてほしい。」

※若年層の中には診療所の存在を認識していない方がいるようである。

### 【地元高齢者ら男性5人(30代と見られる男性1名含む)】

「何十年と週一回、毎火曜日午後から診療している。以前、吉野に診療所があったが、今はない。医師は南陽市から通ってきてくれている。専門は内科、胃腸科。産婦人科、小児科は宮内か南陽まで行く。開業医はたくさんあるし、車で25分位だ。救急車は南陽から来てくれる。診療所に通っているのは3~4人だろう。」





## 6 公立置賜川西診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年8月9日（木）13：30～15：15

②対応者：佐藤信一郎所長（68歳）

（県立中央病院副院長、最上保健所長（2年半）定年後現職、山形市在住）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生 松浪  
山形県健康福祉企画課 竹田主事

### 2 基本的事項

項 目	
1 診療所の位置	川西町大字上小松2918番地2 役場・消防署約600m、羽前小松駅約1km、小松小学校約900m
2 地域の状況（人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	・人口：18,561人（男9,056人女9,502人） （H19・3・31現在の住民基本台帳） ・高齢化率：29.5%、高齢単身者率 6.6%
3 診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）	・診療科：内科（胃腸科含む）、外科、整形外科 ・主な疾病等：生活習慣病（高血圧症・糖尿病・高脂血症）・心疾患・C型肝炎等
4 診療日時	8時30分～17時00分 （土曜日、日曜日、祝日、年末年始休暇を除く）
5 スタッフの状況（異動状況、充足状況、派遣元（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等）	・医師：所長、置賜総合病院からの派遣医師：内科週3回、外科週2回、山形大学附属病院からの派遣医師：内科（胃腸科含む）週2回及び月2回、整形外科週1回 ・医療技術部門：薬剤師1名、放射線技師（嘱託職員）1名、臨床検査技師1名、理学療法士月6回程度の派遣を受けている。 ・看護部：4名 ・事務部：2名、臨時職員1名
6 運営方式（経営状況）	・運営母体は一部事務組合「置賜広域病院組合」（構成団体：山形県、長井市、南陽市、川西町、飯豊町） ・経営母体は川西町（構成団体）であり、医業収支マイナス分については、川西町から負担金として診療所会計に補填
7 主な診療機器	・超音波診断装置、X線装置（CT・透視・断層）、内視鏡
8 外来患者数（1日）	・平成18年度の平均で93.2人（そよ風の森及び訪問診察含む、除けば85人程度）であるが、今年度に入っても減少傾向となっている。
9 通院手段	・家族送迎、自家用車、タクシー、徒歩、デマンド交通等
10 周辺の医療機関	・医療法人社団緑愛会川西湖山病院：養療型病床群併設病院（120床）（内科、整形外科）、介護老人保健施設かがやきの丘（100床）併設 ・斎藤内科循環器科クリニック・柄沢医院（内科・胃腸科）・総合コロニー希望が丘 ・公立置賜総合病院まで約8km、三友堂病院（米沢市）まで約12km、米沢市立病院まで約16km
11 周辺の福祉施設	・特老（通所）：そよ風の森（80名） ・在宅介護支援センター：そよ風の森・かがやきの丘 ・知的障害者授産施設：総合コロニー（200名）
12 救急体制、夜間・時間外の診療体制	・時間外等における緊急な診察については、救命救急センターを利用するよう患者さんに説明をしている。
13 IT等の導入状況（電子カルテ・遠隔医療）	○置賜広域病院組合として、10月1日からの電子カルテ稼働に向けて進められている。

### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

- ・総合病院が急性期病院としての機能を担当し、他の医療機関などに対し、生活習慣病患者等の誘導を図っているが、総合病院外来患者の20%を占めている川西町の外来患者の適正誘導を推進することも、医療連携の基盤を作り上げていくうえで重要であり、診療所の常勤医師の配置などの体制整備が急務となっている。

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携バス）

- ・平成18年度における紹介率：公立置賜川西診療所から公立置賜総合病院 218件
- ・平成18年度における逆紹介率：公立置賜総合病院から公立置賜川西診療所 269件

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・現在の訪問診察患者さんは、実患者で7名程度、また、往診患者さんは、月当たり4名程度となっている。また、看取りについては、平日の所長勤務時間帯であれば所長が行う。

### 6 その他

#### ①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

#### ②代替医、集約化、医師確保について

- ・診療所医師として平成17年4月までは、2名体制であったが、異動により同年5月からは所長1名となり、公立置賜総合病院及び山大附属病院からの派遣を受けているところである。

派遣状況は、開所当時（H12年11月）の診療体制は16コマ（診療所9、総合病院5、山大附属病院2）であったが、現在（H19年4月）では、11コマ+月4コマ（診療所4+月2、総合病院4、山大附属病院3+月2）と減少してきているところである。

#### ③診療報酬改定に対する意見

- ・特に生活習慣病の点数が下がったことにより、収入が減となった。

#### ④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・平日の外来診療であるので、当直等はない。
- ・公立置賜病院設立当時の説明では、人事は置賜公立病院本部の医療監が行うこと、週4日勤務ということであったが、医師不足の現状から、医師の手配は各病院で行うのが原則となってきたり、常勤医師の確保ができないため、隔週週5日勤務となっている。
- ・買い物等で公立置賜総合病院方面へ行く機会が少ないことから、距離的には近いが、精神的に遠く感じており、米沢方面の病院の方が行きやすい様子である。

## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 歳 ③住所(地域名) : 玉庭  
④家族構成(单身等) 1人暮らし

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科など 膝、血圧の薬を処方  
②受診頻度 : 月1回  
③交通手段(状況) 近所に嫁いだ娘が送迎  
④2次医療機関 : 患者自身は受診したことはないが、公立置賜総合病院ではないか。  
⑤時間外等の対応 : 救急車で公立置賜総合病院に利用するだろう。  
⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 特にない。  
⑦健診(検診)の受診状況  
町の検診を受けている(年1回)。地区(玉庭)の公民館で行う。  
⑧その他  
玉庭診療所が平成18年3月で廃止になってから、川西診療所を利用。

## 患者さんへのインタビュー 2

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢82歳 ③住所(地域名) : 玉庭  
④家族構成(单身等) 4人で生活(妻、息子夫婦)

### 2 利用状況

- ① 診療科(今回、通常) : 内科(循環器関係) 膝の痛み(整形外科)  
※ 川西診療所のほかに、血液検査と泌尿器科受診のため、米沢市の三友堂病院へ2ヶ月に1回通院。  
②受診頻度 : 月1回  
③交通手段(状況) 自家用車で通院(妻と一緒に通院)  
※妻は、松浪院生がインタビュー  
④2次医療機関 : 公立置賜総合病院か米沢市立病院  
⑤時間外等の対応 : 救急車で公立置賜総合病院に利用するだろう。  
⑥医療で困っていること。(診療所への希望)  
現在は、自家用車で通院(15分程度)しているが、将来的に運転ができなくなった場合の通院手段が心配。  
⑦健診(検診)の受診状況  
町の検診を受けている(年1回)。肺がん、大腸がん検査。  
⑧その他  
・玉庭診療所が平成18年3月で廃止になってから、川西診療所を利用。  
・玉庭地区も高齢化が進み、高齢单身や高齢夫婦世帯が増えてきている。  
・介護保険料も高い。将来的に介護保険施設もなかなか入れない状況と聞く。また、以前に公立置賜総合病院へ受診したときに、入院を勧められたが医療費が払えないため入院を断念したことがあった。

## 患者さんへのインタビュー 3

### 1 対応者

①性別 女 ②年齢 83歳 ③住所(地域名) : 玉庭

④家族構成(単身等) 1人暮らし

### 2 利用状況

①診療科(今回、通常) : 膝、血圧の薬を処方

②受診頻度 : 月1回

③交通手段(状況) 近所に住むいとこと共に、いとこの娘さん(農家の主婦)の自家用車に乗せてもらって来ている(所要時間15分)。デマンドタクシーを利用したことがある知りはあまりない。

④2次医療機関:大きな病気をした時やひどくなった時には、公立置賜総合病院に行く(所要時間:車で20分位)。

⑤時間外等の対応:救急車を利用し公立置賜総合病院

⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 平成17年度までは、玉庭地区に有った診療所がなくなって遠くなったが、特にない。

⑦健診(検診)の受診状況

近くの地区の公民館で町の検診を受けている

⑧その他

- ・この辺りは、雪が多いが、去年は暖冬だったので冬の通院はそれ程負担にはならなかった。大雪になったらどうなるかわからない。
- ・玉庭地区には以前にあったスキー場などもなくなり、活気がなくなってしまった。以前は農業が中心の地区だったが今では後継者もいない。
- ・若い人がほとんど住んでおらず、自分達のように1人暮らしの老人も多い。

## 患者さんへのインタビュー 4

### 1 対応者

①性別 女 ②年齢 78歳 ③住所(地域名) : 玉庭

④家族構成(単身等) : 夫と息子夫婦と4人暮らし

### 2 利用状況

①診療科(今回、通常) : 血圧の薬を処方

②受診頻度 : 月1回

③交通手段(状況) : 毎回、自家用車で夫に運転してもらって来ており、夫と一緒に受診している(所要時間20分)。

④2次医療機関:大きな病気をした時やひどくなった時には、公立置賜総合病院に行く(所要時間:車で30分位)。

⑤時間外等の対応:時間外の場合は救急病院を受診する。

⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 公立置賜総合病院までは遠いので、もしもの時にどうなるのか心配である。また、現時点では、夫に乗せてもらって通院しているが、夫を頼れなくなったらデマンドを利用することも出来るが通院に負担を感じると思う。

⑦健診(検診)の受診状況:近くの地区の公民館で町の検診を受けている(自転車)

⑧その他

- ・息子が米沢に通勤しているので、息子達は米沢の病院を利用している。

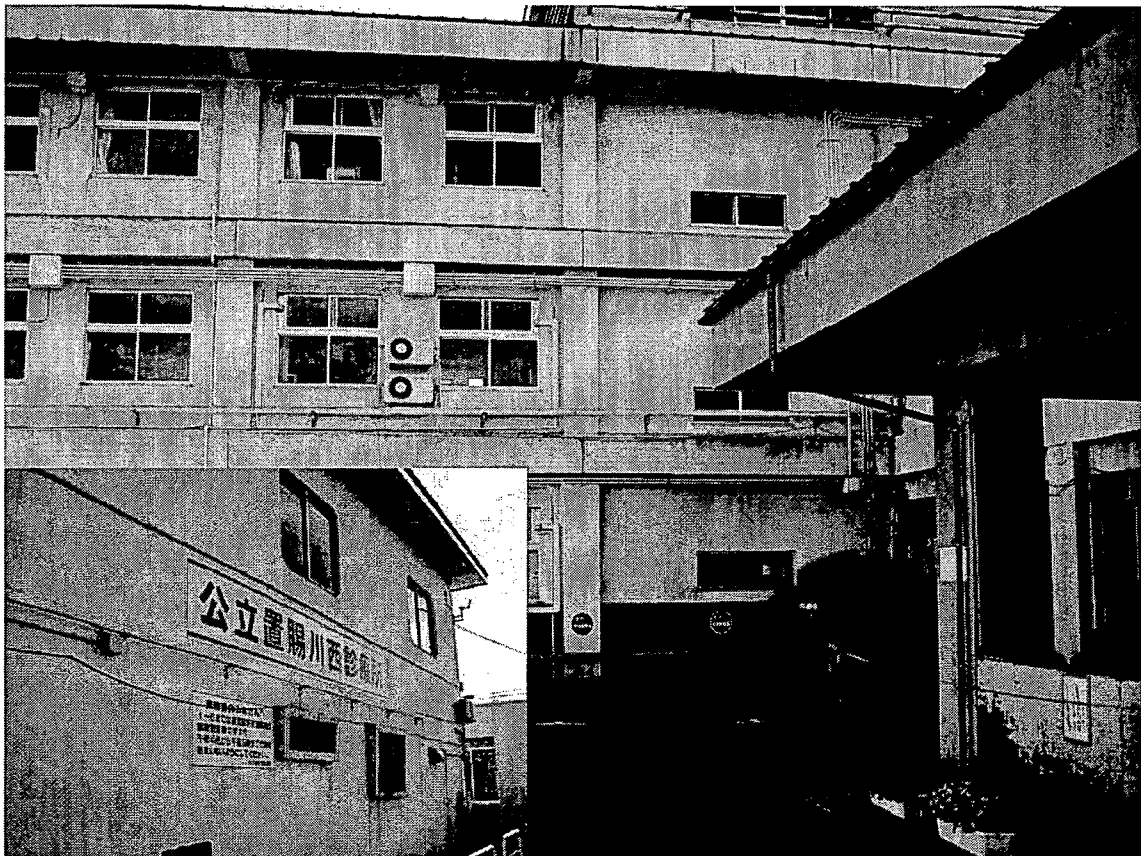
## 患者さんへのインタビュー 5.

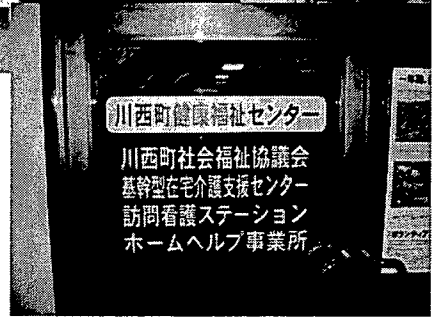
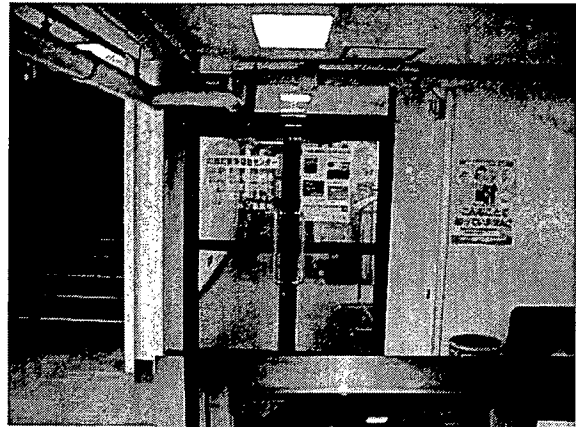
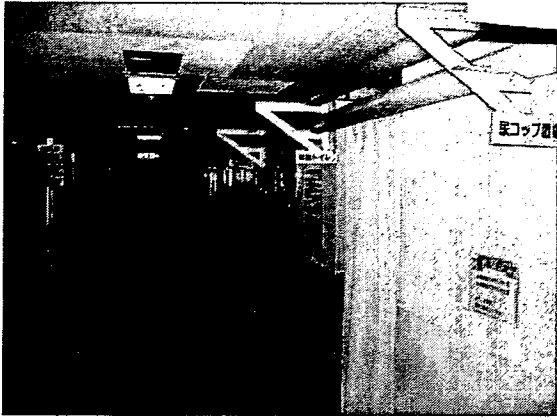
### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 81歳 ③住所(地域名) : 東沢  
④家族構成(単身等) : 息子と孫と3人暮らし

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 足腰が痛くて、湿布の処方してもらいに外科を定期受診  
②受診頻度 : 月1回  
③交通手段(状況) : デマンドタクシー(所要時間10~15分)。  
④2次医療機関 : 大きな病気をした時やひどくなった時には、米沢市の三友堂病院に行く(所要時間 : 車で20~25分位)  
⑤時間外等の対応 :  
急病の場合は救急車を利用し、公立置賜総合病院を受診する(所要時間 : 車で30分位)  
⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 特にない。  
⑦健診(検診)の受診状況 : 健診は診療所を定期受診しているので自分は受診していない。  
⑧その他  
・自分が住んでいる地区は米沢に近いほうなので、若い人は米沢に通勤している人も多い。





## 7 飯豊町国民健康保険診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年7月11日(水)10:30～11:45

②対応者：五十嵐浩太郎 所長 (40歳)

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 高橋、  
山形県健康福祉企画課 竹田主事

### 2 基本的事項

	項 目	
1	診療所の位置	飯豊町大字椿 3654-1 椿駅からから徒歩10分(バス昨年は廃止、デマンド交通) 同敷地内に介護老人保健施設(H18.5～)、町健康福祉課、健康管理センター等町の施設を集約
2	地域の状況 (人口、高齢化率、高齢 単身者率、受診者の平均 年齢人口等)	中津川地区を除く人口約8,200人 高齢化率31.3%(町全体) 患者は高齢者が多い。
3	診療科(実際に診ている 診療科・主な疾病等)	標榜：内科、外科、小児科、皮膚科(実際は内科) 専門は消化器(胃カメラを1人/1日実施)
4	診療日時	月・火・木・金 9時00分～17時00分 水(午後は往診)9時00分～12時30分
5	スタッフの状況 (異動状況、充足状況、 派遣元((社)地域医療支 援機構・へき地医療支援 機構等))	医師1名、看護婦3名(公立置賜病院より1名、臨時看護師2名)、医療事務1名(ニチイ学館)、一般事務1名(町健康福祉課職員)
6	運営方式 (経営状況)	町の特別会計で運営(1億3500万程度で、繰入3500万程度)
7	主な診療機器	レントゲン、内視鏡、エコー、心電図、低周波
8	外来患者数(1日)	24.5人
9	通院手段	主に自家用車、他自転車・バイク・デマンド交通、タクシー
10	周辺の医療機関	公立置賜病院、寺嶋医院(外科)、さゆりクリニック(萩生、整形、歯科)
11	周辺の福祉施設	老健施設「美の里」、福祉協議会「福祉の里めぐみ」、特老「ひめさゆり荘」
12	救急体制、夜間・時 間外の診療体制	公立置賜病院「救急救命センター」へ
13	IT等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	公立置賜病院と共通電子カルテ



### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

車で10分のところに公立置賜病院がある、ここは総合的な医療という面では対応できないが、山間部と比べ恵まれている。

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

- ・実質的には公立置賜病院のサテライトとして機能、紹介、外来の予約等システムとして連携している
- ・公立置賜病院に半年勤務しており、連携しやすい

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老一老介護等の状況）

隣接する施設の長を兼ねている

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・毎週1回、24名を6名×4地区に分けて対応
- ・看取りは月1、2名あり

### 6 その他

#### ①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

- ・近隣の長井市には、すべての診療科が揃っている。

#### ②代替医、集約化、医師確保について

医師会がバックアップしてくれている。原則休業で対応。不便をかけるが、救急等は公立置賜病院で対応できるため大きな影響はない。

#### ③診療報酬改定に対する意見

#### ④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・高齢者対応では、内科と整形が主なので、専門外の整形の研修により総合医としてのスキルを身に付けたい。



## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 81 歳 ③住所(地域名) : 萩生  
④家族構成(単身等) 息子と2人暮らし(孫が近くにいる)

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧の薬を月1回もらっている  
②受診頻度 : 月一回、(10年間)  
③交通手段(状況) : 孫の車に乗せられて  
④2次医療機関 : 公立置賜病院(他の病気に懸かったことないため実績なし)  
⑤時間外等の対応 :  
⑥医療で困っていること。(診療所への希望)  
⑦健診(検診)の受診状況 : 診療所で検査しているため、それ以外は検査を受けていない。  
⑧その他  
・孫、ひ孫は孫の職場に近いところ(長井)に行っている。  
・かかりつけ医として掛かっている人が来ている。

## 患者さんへのインタビュー 2

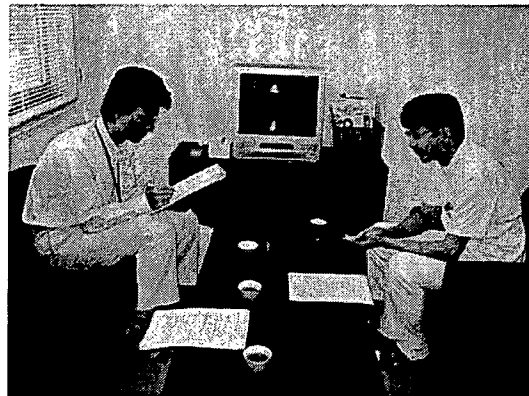
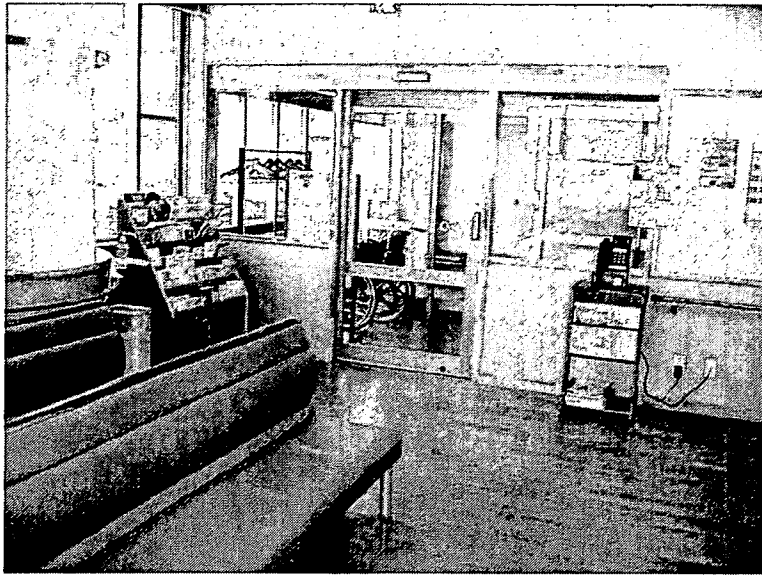
### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 52歳 ③住所(地域名) : 椿  
④家族構成(単身等) 夫婦二人

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 皮膚科関係(臨時)  
②受診頻度 : ちょっと具合が悪くなったため、臨時的  
③交通手段(状況) 自家用車  
④2次医療機関 : 公立置賜総合病院  
⑤時間外等の対応 : 公立置賜総合病院  
⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 特にない。  
⑦健診(検診)の受診状況 : 勤務先で毎年受けている。  
⑧その他  
・公立置賜総合病院で勤務する方で、医師をもっと大学・中央病院などから派遣してほしい。





## 新習町デマド交通「ほほえみカー」

ほほえみカー予約受付センター  
**86-2220**

運行日▶月曜日～金曜日の平日  
(祝日と1月23日～1月31日は休日)

ご予約▶受付センターにてご利用したい日の発車30分前までに電話予約してください。

①乗車場所 ②目的地

予約変更▶予約をキャンセルしたい場合は、電話にてご連絡ください。

ご利用▶新習町で利用登録された方のみご利用いただけます。  
(登録は無料ですが予約料がかかります)

利用できない方▶  
一人でも乗車できない(17歳未満、18歳未満の高校生、小学生未満の小学生、中学生未満の中学生、高校生未満の高校生、要介護1以上の方)

発車時刻	乗車時刻	乗車時刻	乗車時刻
8:00	8:00	8:30	8:30
9:00	9:00	9:30	9:30
10:00	10:00	10:30	10:30
11:00	11:00	11:30	11:30
12:00	12:00	12:30	12:30
13:00	13:00	13:30	13:30
14:00	14:00	14:30	14:30
15:00	15:00	15:30	15:30
16:00	16:00	16:30	16:30

## 福祉タクシー

いいで

車いすのまま気軽に車にお出かけ

ご予約承り中!

お年寄りの乗り降りを変える  
3つのアイテムを標準装備!!!

福祉タクシーいいで  
電話 (0238) 74-2178  
山形県西岩手郡西岩手町554

## 8 飯豊町国民健康保険診療所付属 中津川診療所

### 1 訪問の状況

- ①日 時：平成 19 年 7 月 25 日(水) 10：30～
- ②対応者：阿達敦彦 所長（68歳）
- ③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生 松浪、  
山形県健康福祉企画課 竹田主事

### 2 基本的事項

項 目	
1 診療所の位置	飯豊町大字上原 622 JR 手の子駅から南西へ約 17km、地区公民館、駐在所、学校（500m）、高齢者介護予防センター（旧保育所）、JA支所、郵便局に隣接
2 地域の状況 （人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	・中津川地区人口約 420 人 ・高齢化率 31.3%（町全体）、地区約 50% ・受診者の 90%は高齢者
3 診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）	標榜：内科（高血圧症、変形性関節症）
4 診療日時	月・水・金 9時00分～12時30分
5 スタッフの状況 （異動状況、充足状況、派遣元（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等）	医師 1 名（長井市の開業医、息子さんが主に従事）、看護婦 2 名（公立置賜病院より 1 名、臨時看護師 1 名）、医療事務 1 名（ニチイ学館）、患者搬送車運転手（町嘱託職員）
6 運営方式 （経営状況）	町の特別会計で運営（中津川単独では良好）
7 主な診療機器	レントゲン、エコー、心電図、低周波治療器、超短波治療器、高電位治療器
8 外来患者数(1日)	30 人 （患者は、ほぼ固定。通院日に来ない患者（単身・高齢者）などには、電話をかけたりのなどある程度の見守りも行っている様子。）
9 通院手段	へき地患者輸送車（11の地区を2週間に1回の割合で回れるよう割り振り）、自家用車、デマンド交通～電話予約により家の前まで。
10 周辺の医療機関	寺嶋医院(外科)、飯豊町国保診療所、さゆりクリニック（萩生、整形、歯科）
11 周辺の福祉施設	老健施設「美の里」、福祉協議会「福祉の里めざみ」、徳老「ひめさゆり荘」 高齢者介護予防センター
12 救急体制、夜間・時間外の診療体制	公立置賜総合病院「救急救命センター」へ（約 27km）
13 IT等の導入状況 （電子カルテ・遠隔医療）	公立置賜病院と共通電子カルテ（現在は検査結果の閲覧のみ）レセプトは電算処理（H19.10～）